

ミウズ

No43 | 2024 秋

一人ひとりの個性と能力が発揮できる社会の実現を目指して

男女平等参画講演会(開催報告)

女らしさ、男らしさをこえて
～そもそも、ジェンダーってなに～

講師 清田 隆之さん (文筆家)

2024年6月29日(土) 13:30～15:30 ミレニアムセンター佐倉

清田さんは、大学時代から人の悩みを聞くサークル活動をライクワークのように続けてきて、それが仕事につながり、今は新聞の人生相談の回答者としても、ジェンダーの悩みなどの様々な問題に向き合っておられます。

ジェンダーの概念には、周りから染み込んできて社会文化形成されるものとしての『性差』があります。ありとあらゆる場面で影響を受けてきた結果、いつの間にかなんとなく自分の中にも出来てしまった価値観を『ジェンダー』と言うのだと思います。それぞれの価値観により分断も起きるし、個々においての立ち位置も違います。ジェンダーのモヤモヤは、初めは違和感として感じ、だんだんとその違和感の姿が見えてくることもあるので、話しながらその輪郭を捉えていくのが良いと思います。

女性を無自覚に傷つけたり、女性に押し付けてきたりしたことを見直しつつ、男の人の悩みもひとつひとつ分解し、見つめ直し、ジェンダーの議論は少しずつ進んでいます。

ジェンダーの問題は、感情の問題もとても大事です。社会はその人が何をしてきたのか= doing (役割・能力・実績など)でしか見ようとしませんが、私たちには否定しがたく存在するもの= being (感情・身体感覚・歴史など)という側面も大きいはず。beingとしての自分もちゃんと大事にし、把握する。そうすれば何に腹を立て、それが何によってもたらされているのか、だんだんと考えが広がっていくように思います。

個人の問題と社会の問題とを往復しながら考えていけば、ジェンダーの問題に向き合う手立てとなるのではないかと思います。そしてそれを可能にするのが「おしゃべり」で、フラットな関係で、自分の感情を吐露し共感し合いながら問題を可視化する。それが組織や社会における問題として見えてきたら改善を訴えていく。個人と社会の双方で進めていけば、ジェンダーの課題は記憶されていきます。いろいろな問題が見えてきたら、そこからバランスを見いだしていけたらいいと思います。



おすすめ図書

『たまたま生まれてフィメール』

小川 たまか 著 平凡社



なんの絆か。なんの呪縛か。ときどきすごく滑稽に感じる。結婚と夫婦別姓、政治とジェンダー、透明化される性犯罪被害者の声——。性暴力を取材しつづけるライターの著者が、この国で生きる女性やマイノリティが直面する困難を問い直す。フェミニズム・エッセイ。

『更年期に効く美女チカラ』

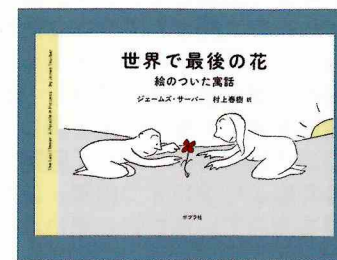
高尾 美穂 著 ねこまき 絵 リベラル社



今すぐできる更年期のセルフケアと婦人科での医療ケアで、女性ホルモンの波に備えて乗り切る術をコミックとイラストを交えて産婦人科専門医高尾美穂が紹介。更年期が怖くなる、閉経後も続く人生をポジティブに過ごすための一冊！

『世界で最後の花 絵のついた寓話』

ジェームズ・サーバー 著 村上 春樹 訳 ポプラ社



なぜ人間は戦争を繰り返すのか？ わたしたちは戦争のない未来をつくることができるのか？ 戦争が起こってしまう「今」を生きるわたしたちに託された平和への願い。大人から子どもまで読める、戦争を考える本。

今回ご紹介した図書は、男女平等参画推進センターミウズに配架してあります。どうぞご利用ください。



女性のための相談

女性が抱える様々な悩みや不安に対し、解決の道を探るための1対1のカウンセリングです。専門の女性相談員が応じます。

毎週金曜日 午前10時～午後3時
(第3金曜日は午後3時～午後8時)

要予約
秘密厳守
無料

ひとりで悩まないで、
一緒に考えましょう

まずはご予約ください

☎043-460-2580

佐倉市男女平等参画推進センターミウズ

女性のための法律相談

離婚・DV・ハラスメント・ストーカー・労働環境など、様々な問題を抱え、法律的な助言を必要とする女性を対象に、女性弁護士による無料法律相談を期間限定で行っています。

R6年度実施日7/26(金)10/25(金)1/24(金)ミウズ
9/28(土)3/19(水)志津コミュニティセンター
11/20(水)ミレニアムセンター佐倉
※実施日の月の前月1日より予約できます。
10:00～15:00 (お一人40分1回のみ)

指定管理者制度導入施設 佐倉市男女平等参画推進センター ミウズ

〒285-0837 佐倉市王子台1-23
レイクピアウスイ3階

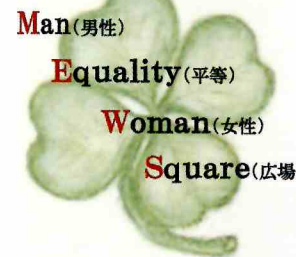


- 開館時間 9:00～20:00
- 休館日 毎月第4水曜日
年末年始(12/29～1/3)
- 施設案内
 - *学習室
 - *ミーティングスペース
 - *図書コーナー
(市内図書館オンライン)
 - *女性のための相談
 - *インターネット利用

●ミウズへのご質問・ご意見等ありましたら下記連絡先までどうぞ

http://mews.shiteikanri-sakura.jp E-mail:info@mews.shiteikanri-sakura.jp

TEL.043-460-2580 FAX.043-460-2582



講座報告

ミウズ男女平等参画セミナー

生き残るための防災対策～自分の命は自分で守る～

日時 2024年5月25日(土) 13:30～15:00
場所 ミウズ学習室
講師 今井 和代さん (八街市社会福祉協議会ボランティアコーディネーター)

～あなたは自分の命を守り抜く自信がありますか～

災害は、地震だけではなく。火災・風水害(台風・ゲリラ豪雨など)時には人災も!まずは、自分が助かることが一番で、自分の命は自分で守ることが重要です。非常用トイレの作り方や、毛布を使って負傷者を運び出す方法などを実践的に学んだように、物を備えううえで、それを応用できるような技術や知識を身に付けることも必要です。どのような状況においても冷静な判断と行動が大切だと学びました。



講座報告

ミウズ男女平等参画セミナーオンライン講座(期間限定YouTube配信)

DV(ドメスティック・バイオレンス)からの回復 ～自分らしく輝くためには～

配信期間 2024年9月1日(日)～9月30日(月)
講師 西山 さつきさん (NPO法人レジリエンス代表理事)



レジリエンスとは、回復力、復元力を表す言葉で、私達の中にいつでも必ずある力です。多くの傷つきは人間関係で発生し、また修復されるのも人間関係においてです。親密な関係性の中で、一方から繰り返し行われる暴力をDVといいます。良い関係性とは、平等で対等、相互の尊重、安全・安心感がある状態です。暴力を容認しない意識を一人一人が高めていく事が、社会の状況を変えていく事になります。私たちは大切にされて生きていく人権という権利があり、それが踏みにじられた時に精神的な暴力となります。回復のための心のケアとしては、「自分らしさ、生活、人とのつながりがバランス良く保たれている状態」になるように体を動かしてみたり、支援者と繋がったりすることなどいいでしょう。また、DVは子どもへの大きな悪影響があり、児童虐待になります。暴力は遺伝ではなく学びなので、健全な環境で生活が安定することが大事です。支援につながる事が重要です。

パネル展示

ミウズ☆フェスティバル2024

毎年、6月23日から29日の1週間は、女性と男性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現を目指す「男女共同参画週間」とされています。推進拠点施設であるミウズでは期間に合わせ、登録団体による「活動の紹介パネル」や作品を展示し、絵本読み聞かせや折り紙制作、みつろうを使ったエコラップ作り等のイベントを行い皆さんに楽しんでいただきました。



登録団体紹介

クライス

NPO佐倉子どもステーションの大人の会員が集まり2001年より活動しています。親の立場としてではなく、一人の人間として様々な活動や交流を通して自分らしさ・新しい自分の発見を目指しています。バス旅行・講演会・美術館巡り・歴史散策・物作り等の企画を通して多くの人と楽しく活動してきました。コロナ禍以降、しばらく活動できませんでしたが、今年度より少しずつ再開。また、新しい出会いや発見を求めています。



クライス 連絡先 梅津 由紀恵
043-486-9318

登録団体紹介

佐倉地域文庫連絡会

1978年市内の文庫が集まり、図書館の支援を受けて佐倉地域文庫連絡会が発足しました。一冊でも多くの本を子どもたちに届けたいという想いは、今も同じです。少子化、社会情勢の変化と共に文庫は減少しました。が、本を手渡すには「人」が必要です。母子保健課のもぐもぐ教室では8か月のあちゃん親子に絵本やわらべうたを紹介。絵本の楽しさを伝えるために、毎月10日と第4土曜日にはおはなし会を夢咲くら館で開催。文庫活動は生涯学習です。仲間が増えることを願っています。



佐倉地域文庫連絡会 連絡先 内藤 達子 043-461-5559

ワンポイント講座

仕事と健康の両立 ～全ての人が希望に応じて活躍できる社会の実現に向けて～

現在働いている者の働く上での困りごとについて、役職・雇用形態別にみると、管理職の女性では、非管理職の女性と比べて、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」、「働きながら治療のために通院しづらい・時間がとれない」、「役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる」を挙げる者の割合が高くなっている。一方、管理職の男性では、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」、「役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる」を挙げる者の割合が高くなっている。また、正規雇用労働者/非管理職の女性では、他の区分と比べて「月経(生理)の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい」を挙げる者の割合が高くなっている。

健康課題に関する働く上での困りごと(男女、役職・雇用形態別・有業者)

